

〔宣胤卿記〕永正十五年七月十五日、盆供如例、元ハ父方七膳、母方七膳、備之近代省略不可然

一夏中毎日百万反念佛卒都婆一夏中、毎日一本外、至今日二千六百本

〔尊語集抄〕一于蘭盆ニ者、御書院ニ竹を御つらせ被成紙を小さく御切せ、處々御陣の節致御供、討

死抔仕候御家來之名御書せ、右竹ニ張並べ有を、十徳を被召御數珠御手賀家政ニ御持、御立向ひ

被遊、どこそこの御陣處ニ面骨折たると、夫々被仰、一禮宛被遊御通り之由、古き者共内海彌五大

夫抔とも語り傳候由之事

〔桃源遺事〕四一西山公光或とき御歩行の序に、何方善兵衛が祖母の家にたちよらせ給ひし

折節七月十三日なりし、彼老女盆棚をかざり置候が、位牌ども計をならべて、其前にいろくの

供物を備へ、本尊は何も見えざりければ、かやうにはせぬもの也、もろくの供物を如來に獻じ

奉り、其功德によつて、そのこゝろさす所の靈魂昇脱することなり、板や有と御尋候に、まかるべ

き板も御座なく候よし申上候へば、門にうち候大般若の札を御取寄、御小刀にて御削り給ひて

袍休蘭羅佛

薩達磨芬陀利伽素多覽 日蓮大士天地萬靈有緣無緣

釋迦牟尼佛

かくのごとく御認め、盆棚へ懸候へとて下し置れ、玉まつりのいはれ御物語なされ聞せられし、

彼札は、老女死後善兵衛事、久昌寺へ納め申候

〔駿臺雜話〕禮二人の乞兒略中 又加賀の國に野田山とてあり、前田家先祖以來代々こゝに葬る、

故に家中の諸士も、死すれば其麓に葬らざるはすくなし、さる間中元には、家々より墓前に燈籠

を具ふ、毎歳の事なり、厚祿の家こそ、假屋を造り、人をつけ置て守りもすれ、其外は大かた夜ふく

れば、ともし捨て歸りぬるに、下部の惡黨ども來て、火を打けし、蠟燭を奪取けり、側に乞食とおぼ